

社会技術研究開発事業

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）」

2022年度採択プロジェクトの本格研究開発期間への移行について

社会技術研究開発事業「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）」において、2022年度採択プロジェクトのうち本格研究開発期間への移行を希望するプロジェクトについてステージゲート評価を行い、本格研究開発期間支援対象のプロジェクトを次のとおり決定しました。

プロジェクト名	研究代表者
シチズンサポートプロジェクトによる社会的孤立・孤独の一次予防	伊藤 文人 （東北大学 大学院教育学研究科 講師）
オールマイノリティプロジェクト：発達障害者を始めとするマイノリティが社会的孤立・孤独に陥らない認知行動療法を用いた社会ネットワークづくり	大島 郁葉 （千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター 教授）
都市集合住宅高齢者の社会的孤立を予防する持続可能なコミュニティ構築	片桐 恵子 （神戸大学 ウェルビーイング先端研究センター 教授）
いきいき・つながり職場づくり：孤立・孤独を予防する包摂組織の社会実装	川上 憲人 （東京大学 大学院医学系研究科 特任教授）
生きがいボランティアシステムの構築による社会的孤立・孤独の持続的な予防	島田 裕之 （国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学センター センター長）
社会的養護経験者（ケアリーパー）の社会的孤立を防ぎ、支援と繋がりながら自立を支える仕組みを創る	宮地 菜穂子 （同朋大学 社会福祉学部 准教授）

（所属機関・役職は移行決定時点、五十音順に掲載）

<ステージゲート評価について>

本プログラムでは、2022年度採択プロジェクトについては、スモールスタート（可能性検証）研究開発開始後1年程度を目処にステージゲート評価を実施します。ステージゲート評価では、研究開発プロジェクトの目標達成に向けた隘路解消のための対応及びその後の実現可能性を評価し、研究開発プロジェクトの継続が妥当と判断されたプロジェクトは、実施内容及び実施体制の適正化を行った上で、原則3年間の本格研究開発を行います。

ステージゲート評価基準は以下のとおりです。

【ステージゲート評価基準】

(a. ~c. の項目に基づいて総合的に評価します)

a. 研究開発の進捗状況について

- ・スモールスタート期間における研究開発成果が着実に出ているか。
- ・スモールスタート期間における研究開発成果により、研究側と施策現場側それぞれのニーズや課題の相互理解に基づき、研究開発要素「①社会的孤立・孤独メカニズム理解と、社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出」「②社会的孤立・孤独リスクの可視化と評価手法（指標等）の開発」「③社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み」の一体的推進とPoC実施までの計画が整理されているか。
- ・プロジェクト内のチーム間やプロジェクト間の統合・再編があった場合、その効果と計画について整理されているか。

b. 研究開発体制について

- ・研究開発要素①②③を一体的に推進するために、人文・社会科学や自然科学の研究者並びに施策現場など社会の多様な関与者による十分な連携体制が構築されているか。
- ・PoC実施のために、開発した社会的孤立・孤独の予防施策等の効果を、国内の特定地域、学校、職場、コミュニティなどの施策現場で実証できる仕組みができているか。

c. 研究開発成果のインパクトについて

- ・研究開発成果が将来もたらすインパクト（学術的・公共的価値の創出、現在及び将来の社会・産業ニーズへの貢献、国内外の他の分野・地域への波及・展開など）やSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の達成に貢献する道筋が描出されているか。

以上